

群馬県官民連携まちづくりシンポジウム

群馬県 県土整備部 都市計画課

令和8年3月24日(火)、群馬会館にて「官民連携まちづくりシンポジウム」が開催されました。(株)ハートビートプラン代表取締役の園田聡氏による基調講演や富岡市及び前橋市による事例発表、各登壇者によるトークセッションが行われました。

■ 第1部 基調講演

はじめに基調講演として、(株)ハートビートプラン代表取締役の園田氏に「公共空間を活かす力 一エリア価値を高めるプレイスメイキング」と題して登壇いただきました。まちの価値基準から問い直すことが重要であり、定量的・定性的などどのような指標でまちを見るかによって目指すべき方向性が変わると導入があり、続くプレイスメイキングの観点では、活動と空間の適切なマッチングが必要であり、「(形態+活動)×印象=居場所」の式が成り立つとし、松本市での取組を例に話されました。官と民の関係性について、従来の考え方であるサービス提供者と消費者という構造(行政が立案、住民が消費)から、多様な共創で持続可能な取り組みにシフトしている。また、地域の人々が地域の資産を用いて地域で取り組むことも重要と話されました。



基調講演の様子

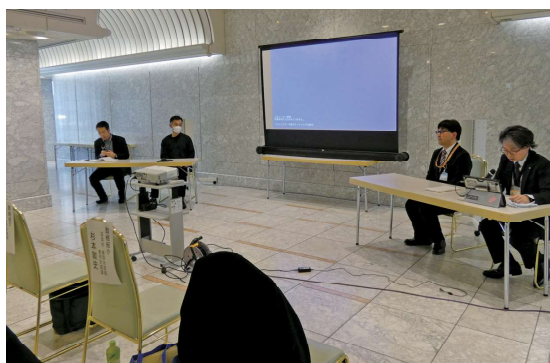
■ 第2部 取組紹介

続いて自治体の取組紹介として、富岡市及び前橋市が登壇されました。富岡市は、パークレットを用いたまちなか周遊性向上に向けた検討について発表がありました。富岡製糸場とその最寄り駅である上州富岡駅とを結ぶ動線上に回遊が生まれにくいといった課題から、人の流れをつくる仕掛けが必要であると考え、群馬県と富岡市が共同でパークレットを設置する社会実験の紹介がありました。世界遺産センター「セカイト」の入り口にパークレットを設置することで、小さな交流の場が生まれるとともに、駅と製糸場との間に新しい回遊動線が生まれることを期待しています。

前橋市からは広瀬団地再生に向けた取り組みについて発表がありました。広瀬団地では住民参加型のワークショップを設け、行政だけが決めるのではなく、住民や学生、事業者と一緒に団地の魅力や課題、将来像を言葉にしていきました。そうして定めた「広瀬団地再生ビジョン」に基づき、公園遊具の塗装やスポーツ大会、近隣の神社の境内を活用した交流イベント、祭事など、実践的な取り組みを進めています。同じビジョンを共有することにより、住民たちの「やってみよう」が生まれ、「自分事」に感じる仕組みが定着しています。

■ 第3部 トークセッション

最後に講演及び事例発表の登壇者でトークセッションを行いました。官民連携の円滑な進め方や座組のポイントについて議論がされ、行政目線だけでなく民間や住民の柔軟な考えを取り入れる相互理解の姿勢が必要、みな生活者である点は同じなため、共通の観点から感じる意見を「まち」に落とすことが重要であるといった意見がでました。



トークセッションの様子



参加者で記念撮影

